

【出題の意図】

問1 課題文では、窒素問題について、「窒素利用の便益」と「窒素汚染の脅威」について説明されている。それぞれの具体的な説明と、両者がトレードオフの関係にあるという説明ができるかを問う。解答文中に「トレードオフ」という語が使用されていなくとも、その関係を表している記述がなされていれば減点はしない。

問2 課題文中では、窒素問題の解決に向けた対策の方向性や例について、大きく分けて以下のような観点で示されている。

- ・窒素問題への認識を深めること（例：環境教育など）
- ・生産（食料生産）・消費の窒素利用効率（NUE）を上げること（例：作物の廃棄の削減）
- ・NUEが高い食品への転換や過剰消費を控えること（例：行動変容、食料システム全体の改善）
- ・環境に漏れようとする反応性窒素を N_2 に処理すること（課題文中での例示なし）
- ・知識の共有や共に取り組む仲間を得ること（例：分野を超えた研究者交流）

これらの観点での対策を推し進めるために必要な取り組みを、例示されているものをそのまま記述するだけでなく、自身のアイデアを交えて具体的に記述されているかどうかを問う。

【出題の意図】

- 問1 課題文では、農村社会における、高度経済成長期以降の兼業化、混住化、過疎化と、その要因について説明されている。課題文を正確に読解した上で、その要点を制限字数内での的確に表現することができるかを問う。
- 問2 課題文では、「幅広い関係者と連携」について、移住者の増加に向けた工夫、農家民宿などツーリズムを通じた関係性の創出、学校教育での農村問題、地産地消、自然災害などのトピックの推進などを挙げているが、これらに限らず、筆者が文中で述べていることに言及し、要約した上で、自分の提案を具体的かつある程度の現実性をもって制限字数内で記述することができるかを問う。